フォトジャーナリスト・安田菜津紀さんの講演

～ 紛争地、被災地で生きる人々の声 ～ 取材から見えてきたこと ～

10/30（水）全校生徒が体育館にて、貧困や紛争など、安田さんが取材されたことを中心に、現地で撮影された写真を見ながら講話を聴きました。シリアやウクライナなどの世界情勢や、東日本大震災など話題は多岐にわたり、多くのことを学ぶことができました。

講演の感想

「恩返し」ではなく、「恩送り」という言葉がすごく心に響いた。私たちがお話を聞いて心を動かされて、色んなことを知れたように、次は私がより多くまわりの人に伝えられるようにしていきたいと思う。（１年）

むごい姿になってしまった国々も、少し前までは美しい姿で、それらを突然なくしてしまう戦争の被害の怖さを知りました。そんな生活が続く中、他に誰かが困っていたら手をさしのべる方々の関係がほんとに素敵だなと思ったし、そうやって人を助ける「恩を送る」ということは自分でもできるんじゃないかと考えました。（２年）

写真は、その時の風景を記録として残すというイメージだったけれど、安田さんの写真からは、たくさんのメッセージを感じた。紛争地に足を運び、写真を撮ることはとても意味のあることだと思った。多くの死と向き合い、シャッターをきることは、とてもつらいことだと思った。しかし、現地に行き、話を聞き、命と向き合い、シャッターをきっているからこそ、安田さんの写真は強いメッセージを感じるのだと思った。安田さんの写真は、未来に向けた手紙のように感じた。手紙を受け取り、この手紙をより多くの人に届けることが大切だと思った。（３年）